

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472201647	事業の開始年月日	平成16年2月1日
		指定年月日	平成16年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 偕老会		
事業所名	偕老ホーム		
所在地	(〒252-0824) 神奈川県藤沢市打戻1896番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年7月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が日々楽しく過ごしています。毎日近隣の商店街へ食材を求めに出掛け、入居者が食べたいものを選んでいきます。家事活動を通じて、その方のできるころ、わかることを活かせるように職員がサポートしています。また外出することで身体も精神も元気であることに繋がると実感しておりますのでどこへでも出掛けます。みんなで楽しく協力し合いながら笑って暮らしています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価機関 評価決定日	平成22年6月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は小田急江ノ島線の長後駅からバスで15分ほどの住宅街にある。近くには小学校、幼稚園、市民センターがあり、児童、園児、市民センター利用者との関わりが利用者の生活を豊かにしている。またスーパーマーケットや各種の商店があり、買い物などが便利な環境である。</p> <p><b>【理念に沿った生活支援】</b> 理念に基づき、利用者にも目的を持って行動してもらうように働きかけている。毎日、利用者と職員とが一緒に献立を考え、食材を買いに行き、利用者は包丁で食材を切るなどの調理を行っている。利用者が少しでも自分で出来るように、職員は見守りながら手助けをし、全てやってあげる介護でなく利用者ができたことへの喜びを感じてもらえるようなケアを行なっている。</p> <p><b>【外出支援】</b> 利用者の東京見物をしたいという思いを汲んで、今年はリフトバスを借りてバス旅行を企画し、家族の協力を得て全員が旅行に参加した。</p> <p><b>【地域交流】</b> 市民文化祭に、時間をかけて歌の練習をし、衣裳も自分達で作って出演し、地域の大勢の人に喜ばれた。また、町内会の夏祭りに参加したり、近くの店へ買い物に行ったり、市民センターの図書館に行くなどして、地域の人と気軽に声を掛け合える関係ができています。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	借老ホーム
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・フロアー・スタッフルームに揚げ、毎朝申し送り時に唱え共有するように努めている。また理念に基づいたケアサービスの提供への取り組みをしている。	「入居される方のあるがままを受入れます」など5項を理念に掲げ、これをもとに利用者が地域での生活を継続できるように支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板をまわしたり、積極的に地域の活動に参加している。また毎日近隣の商店街を利用し、顔なじみになり、挨拶を交わしている。	町内会のお祭りに参加したり、利用者が地域の清掃の時にゴミ拾いを行っている。市民文化祭に出演したり、小学校運動会に出かけたこともある。毎日、買い物に出かけ、地域の人たちと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域保健福祉ネットワークに参加しており、介護教室や講演等を行っている。また地域の行事にスタッフとして参加している。近隣の方が相談に来られる事もある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの報告や地域の方からの情報も頂き、直接に入居者の方とお茶を飲みながら会話や行事に参加していただき、サービスの実際を見て頂いている。	3ヶ月毎に地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員、町内会長などが参加して開催している。事業所の現況報告、市民センターの図書館利用、町内会での活動、レクリエーション活動など幅広い地域の情報の交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に入り、市町村担当者と協力関係を築いている。地域密着サービス事業所の研修会を協力している。	行政からの見学を受け入れたり、管理者がグループホーム連絡会の研修の講師を務めたり、グループホーム連絡会主催の研修に職員を参加させている。行政とは信頼関係が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はまったく行っておらず、入居者主体のケアに努め、契約書にも身体拘束は行わないことを載せ、職員も理解している。	「拘束をしないケア」の勉強会を行い職員には周知し、身体拘束はしていない。玄関及び1、2階のフロア入口は施錠せず、利用者は自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学ぶ機会はある。また虐待防止の手引きやアンケート結果を職員間で回覧し、どんなことが虐待なのか、言葉の虐待にも常に意識している。また困り具合や気になることをお互いに出し合い、職員一人の問題ではなく、全員の問題として話し合う場を設けている。常に職員の質の向上および連携と統一ケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会を設けている。現状では家族間の関係性は良く、必要性は感じていないが、今後も情報提供はしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行っている。入所時に係らず、常時気軽に何でも尋ねていただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月相談員の訪問を受け入れ、入居者の意見を代弁して頂いているので改善すべき事はすぐに対応している。家族には家族会やアンケートにて意見を聞いている。	家族の訪問時に声掛けをしたり、電話で連絡して意見や要望を聴いている。管理者が聞き取った内容をノートにまとめ、対応を密にし、家族・利用者を安心させている。「サプリメントを飲ませて欲しい」などの要望に対処している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何事もオープンにしている職員会で提案・話し合いする機会があり、反映できるように努めている。	毎月の職員会議でケアの内容や行事の企画・立案について話し合っていて実践している。管理者は、職員が利用者のために自発的に目的を持って行事やケアを行なうこと奨励し、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大変な仕事であるからこそやりがいを持って働けるように就業環境の整備には常に努めているが、社会的に経済面・人材面において、十分に至っていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月勉強会を実施している他に研修情報は随時提供し、受講を勧めている。研修者は再確認のために職員会で報告し、報告書も回覧する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市の連絡会に参加して交流している。同業者と共同で研修会を実施、研修発表を実施、また相互訪問し、行事にも参加している。お互いに学び・刺激になり質の向上につないでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と担当職員で入所前に自宅訪問し、本人の思いや生活歴等を聞き取り、職員間の情報を共有し、入所されてからの共通会話ができるようにしている。またできるかぎり入所前に体験入所していただき関係作りに努めている。特に入居者の力を活かして協力を求め仲間作りをともにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて相談にこられたときは、家族の困りごと、望んでいることを聴き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う。また入居者の方と共に会話していただきながら暮らしの状況を説明している。家族の入居させることの負い目と不安を軽減できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の方々のなんでも相談を受けるようにしている。入居待機者の方が相談されることもあるし、他の情報や他施設を紹介することもしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	～してあげる関係ではなく人生の先輩としての意識を持ち、個々の能力を見極め達成感を味わえるように、共に行動し、喜怒哀楽を共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から入居者の様子を伝え、家族は職員の大変さや努力を十分に理解し、また職員も家族の思いを理解し共に入居者の笑顔を引き出すように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と外出される方もあるが高齢になるとなじみの関係が薄れてくる。家族と出かけることや自宅へ帰ること、誕生日には本人の希望を聞き個別ケアで外出するなど行っている。	利用者の友人や知人の来訪時には利用者がお茶などで接待し、フロアで歓迎している。近くの馴染みの美容院に行く人もいる。手紙や電話の取り次ぎもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間等で、ここはお年寄りが仲良く笑って暮らす所であること、また皆ができることを協力し合って暮らす所であることを伝えている。職員は個々の役割作りに配慮している。入居者間は大声を出される方にはいさめたり不安な方には慰めたり、困ったときは助け合うなどの関係ができています。楽しく笑えるように活動に繋いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が亡くなられても家族が時折訪問され、入居者と共にお茶を飲みながら会話され、行事等も参加されている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどう暮らして生きたいか、日常生活の関わりをとおして、言葉で表現できない方は表情や行動で希望意向の把握に努めている。特に誕生日には本人の希望を実行している。	入居時のアセスメントを参考にしたり、毎日の生活の中で、利用者によく話をして意見や要望を把握している。ケア日誌に利用者の話したままの言葉を記録し、他の職員と共有している。意向を把握しにくい人にはスキンシップと笑顔で対応し、何が言いたいかをよく見て推察するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルは把握できているが入居後も家族や本人の情報を職員間で共有し、日常生活状況も記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活リズムを把握している。できること、わかること、支援を必要としていることを見極め、職員が連携しケアに繋ぐように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいた支援を行い、変化があった場合には打ち合わせ時やミニカンファ・ケアカンファを行い即ケアに繋げ、入居者が困らないようにしている。	職員が利用者や家族の意見を聞き、管理者が家族の要望を取り入れたプランを作成する。これをもとに6ヶ月を目途にカンファレンスを行い、見直しをしている。状態が変化した時にはモニタリングを行い、ケアプランに赤字で記入し、朝の申し送り時に職員に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌および業務日誌等へ記録し、変化時には送り欄を活用し情報の共有を図る。ケア日誌にはプランのチェック欄を設け、現状に即したケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は単独であるために多機能性は活かしていないが入居者や家族の要望があれば柔軟な支援は行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近ホームの様子を近隣の方々に周知頂いている。毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わし、地域の行事や小学校や幼稚園の運動会等見学、公民館文化発表会でのふれあいステージに参加した。町内会に加入し、回覧板を回し、ゴミ当番、ゴミ拾いに参加している。入居者の方がひとりで外に出ているときは近所の方が教えてくださる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を利用されている。家族と情報を共有し、緊急を要する場合は協力病院へ受診同行している。通院が困難になった場合は訪問医を利用されている。	入居前からのかかりつけ医を利用者が受診した場合は、結果を職員が聞いている。家族がいない人は協力医に職員が同行している。重度化した人には主治医を訪問医に変えるよう勧めている。入院の場合は協力医の総合病院を利用している。退院後の対応については職員が説明を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制はとっていないので看護職員はいないが管理者が利用者の状況により医療との情報提供を行い適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く。退院時は退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル加算はとっていないが、家族会において週末ケアの話をさせていただいている。事業所のできることを十分に理解していただき、本人や家族の希望があれば支援している。	ターミナルケアは事業所ができる範囲で行うこととしている。会議の折に職員と話し合っている。看取りの例はない。重度化した場合には、主治医を協力医に変更してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・緊急時の対応マニュアルは作成され確認している。また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した書類を持参し活用している。昨年は救急救命法の研修を実施したが、今年は管理者の指導に留まっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・避難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している。	ホーム全体の防災訓練は年2回、消防設備点検業者と消防署の協力を得て、通報訓練、消火訓練をしている。ユニット毎には月1回、火災を想定して避難訓練をしている。地域との連携については運営推進会議で話し合わせ、地域の避難訓練に利用者も職員と一緒に参加している。倉庫に水、食料、オムツなどを備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はその方の特徴をとらえ人格を尊重しながら、それぞれが分かりやすい言葉で対応するように努めている。	職員会議やミーティング時にプライバシーを損ねない対応などについて管理者が研修を行い職員に周知させている。職員はそれぞれの利用者を尊重し、丁寧な言葉で話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを理解しているので、本人がどうしたいか問いかけ自己決定ができるようにしている。決定できない場合は選択できるような場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように入居者のあるがままを受け入れることを基本にしているので職員側の都合で無理強いはしない。一人ひとりの意思を確認しながら、その方のペースで生活している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れ・臭いには配慮している、自分で洋服を選ぶことができない方が多数だが、特に外出や行事のときは注意している。理・美容は行きつけの所へ行かれたり、困難な方には美容師の方へ毎月来て頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるが一番楽しみにされているし、おいしいものを食べるのが元氣であることを実感している。どんなものが食べたいか尋ね、毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう。新鮮で季節のものを取り入れ、三食とも入居者と共に調理し、職員も同じものを一緒に食べて楽しんでいる。後片付けも共にしている。誕生日にはその方の好みのものを取入れている。外食時には自分で食べたいものを選んでいく。	その日に食べたいものを利用者に聞き、献立を決め、食材を買いに行っている。包丁を使う利用者や、下ごしらえをする利用者もいる。配膳も職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで楽しく話をし、介助もしながら同じものを食べている。献立は蛋白質や、野菜を多く取るように作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの食材を使い、栄養バランスを考えている。水分量や食事量は記録をとり、不足している場合には、補食や形態を変えるなど対応している。また好みのものを用意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り、介助を行っている。必要に応じて訪問歯科医からの口腔ケアの指導を受けることもある。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に努めている。おむつや失敗があったときには、プライバシーに気をつけ、清潔に努め入浴、清拭や洗浄を行うようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握している。居室にトイレがあるので利用者はそれぞれの部屋で済ませている。利用者には排泄の様子を聞いたり、居室内のトイレを確認している。厚手のパンツ、パットを使うようにして利用者が、排泄を自分で気づくようにして支援している。夜はリハビリパンツを使用している人が多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、多くの野菜が摂れるような食事や乳製品、野菜ジュース等飲み物や日中の活動にも気をつけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を重視している。好みの温度や時間など個々に応じている。介助が必要な方については、拒否がある場合は無理に勧めず、清拭や足浴などで対応する場合もある。	入浴は一日中、できるようにしている。毎日入る人もいるが、平均して週2、3回の人が多い。入浴したがる人には足湯や清拭を行っている。身体を洗う時に固形石鹸を使う習慣がある方は、それを忘れないように事業所でも固形石鹸を使っている。レモン湯、ショウガ湯、リンゴ湯などにすることもあり気分よく入浴している。仲のよい人同士が二人で入ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に休息が必要な方は本人の希望でベッドやソファで休んでいただいている。夜はしっかり眠れるように、できるだけ太陽の光を浴びることや、活動に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方指示通りの支援を行い変更があったときは、効き具合の様子観察し医療に繋いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者の役割を把握しており、毎日の家事や季節ごとの行事の準備を楽しみながら張りのある暮らしが出来るように努めている。外出する機会を多く持ち地域の行事に参加、外食、公園散策、日帰り旅行を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ全員が毎日戸外へ出かけることに努力している。買い物、季節ごとの行事を計画し、家族の協力で今年はリフトバスにて東京旅行を満喫した。地域の行事にも参加している。	毎日、買い物や散歩に出かけている。利用者同士で近くに買い物に行くこともある。市民センターの図書館にも出掛ける。季節により桜、菜の花、バラを見に行っている。今年度はバスで東京見物をして大変に喜ばれた。	外に出て体を動かすことで、五感刺激を得られるように外出の継続を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少なく、外出するときや買い物に出かけたときには、その方の能力に応じて、支払いをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたり、手紙を書くことを望まれる方はないが、家族や知人からの電話は取り次いでいる。また連絡などについては本人と代わって用件を確認している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、玄関や、フロアでは季節ごとの飾りで生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫している。	リビングは明るく、テーブルを離して配置している。利用者はそれぞれのテーブルで好きなことをしている。縁台風の畳部分では洗濯物を畳む人もいる。テレビが見やすいようにソファを配置している。空調に気をつけ、必ず朝夕の換気をしている。トイレの清掃と手すり拭きを毎日行い、清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにはベンチを置き、外気浴をしたり、陽の当たる窓際には畳やソファを置き、日向ぼっこをされている。またテレビの前にもソファをおいて、くつろげる場所を作り、それぞれ好きなところで過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはできるだけ自宅で使われていたものを持ってきて頂き、配置も同じようになるように工夫している。部屋の場所は分からないが部屋の中へ入るところだと分かり安心されている。	居室には洗面台とトイレが完備され、利用者は使い慣れたたんす、テレビ、縫いぐるみなどを置いている。身体機能のよい人は布団に、他の人はベッドを使うなど過ごしやすい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ洗面台が付いて、手すり、入り口は引き戸である。歩行が困難であるからすぐに車椅子にするのではなく、手すりの使い方や声掛けを行い歩行の継続をしている。職員は入居者の能力を理解しており、能力に応じての支援を行うように努めている。		

事業所名	借老ホーム
ユニット名	楓

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・フロアー・スタッフルームに揚げ、毎朝申し送り時に唱え共有するように努めているまた理念に基づいたケアサービスの提供への取り組みをしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板をまわしたり、積極的に地域の活動やイベントにもに参加している、また毎日近隣の商店街を利用し、顔なじみになり、挨拶を交わしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域保健福祉ネットワークに参加しており、介護教室や講演等を行っているまた地域の行事にスタッフとして参加している。近隣の方が相談に来られる事もある。近隣の幼稚園や小学校の行事に参加し、こどもとのふれあいを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの報告や地域の方と情報交換を行い、直接に入居者とお茶を飲みながらの会話や行事に参加して頂き、サービスの実際を見て頂いている。入居者の方が元気で活動をしている現状を見られ理解して頂いている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に入り、市町村担当者と協力関係を築いている。地域密着サービス事業所の研修会を協力している。毎月福祉相談員の方が訪問に来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はまったく行っておらず、入居者主体のケアに努め、契約書にも身体拘束は行わないことを載せ、職員は勉強会を行い理解している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学ぶ機会はある また虐待防止の手引きやアンケート結果を職員間で回覧し、どんなことが虐待なのか、言葉の虐待にも常に意識している、また困り具合や気になることをお互いに出し合い、職員一人の問題ではなく、全員の問題として話し合う場を設けている。常に職員の質の向上および連携と統一ケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会を設けている。現状では家族間の関係性は良く、必要性は感じていないが、今後も情報提供はしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行っている、入所時に係らず、常時気軽に何でも尋ねていただけるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月相談員の訪問を受け入れ、入居者の意見を代弁して頂いているので改善すべき事はすぐに対応している、家族には家族会やアンケートにて意見を聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何事もオープンにしている職員会で提案・話し合いする機会はある、随時意見提案の場があり反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大変な仕事であるからこそやりがいを持って働けるように就業環境の整備には常に努めているが、社会的に経済面・人材面において、十分に至っていないが向上心を持って働けるように各自が目標を定めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月勉強会を実施している他に研修情報は随時提供し、受講を勧めている。研修者は再確認のために職員会で報告し報告書も回覧する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市の連絡会に参加して交流している、同業者と共同で研修会を実施、研修発表を実施、また相互訪問し、行事にも参加しているお互いに学び・刺激になり質の向上につないでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と担当職員で入所前に自宅訪問し、本人の思いや生活歴等を聞き取り、職員間の情報を共有し、入所されてからの共通会話ができるようにしている、またできるかぎり入所前に体験入所していただき関係作りに努めている。特に入居者の力を活かして、仲間作りの協力を共に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて相談にこられたときは、家族の困りごと、望んでいることを聴き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う、また入居者の方と共に会話していただきながら暮らしの状況を説明している。家族の入居させることの負い目と不安を軽減できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況をよく聞き取り、今必要なサービスはどんなことか見極め、他の情報や他施設を紹介する場合もある		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	～してあげる関係ではなく人生の先輩としての意識を持ち、個々の能力を見極め達成感を味わえるように、共に行動し、喜怒哀楽を共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家事活動を中心に、本人の能力を活かしながら、職員は共に行動している。家族の協力と理解があるからこそ、暮らすことができている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人や親戚の方の訪問や電話、手紙などが届いたときは、再度訪問して下さるように伝えることや便りや電話を掛けるように勧めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に行動し、下膳で着ない方の分も下げる、気分が沈んでいる方がいると話し相手をし、お互いに支えあっている様子が見られる。職員は常にお互いを理解しあえるように関係性作りを心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性は変わらず継続している。時折来所される		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどう暮らして生きたいか本人の思いを、日常生活の関りの中で、また言葉で表現できない方は表情や行動での把握に努めている、特に誕生日には本人の希望を取り入れて実行している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルなどお聞きするが、入居後も家族や本人の情報を職員間で共有し、経験を活かした役割作りを支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活リズムを把握している。できること、わかること、支援を必要としていることを見極める要に努めている、また記録や情報を共有することでケアに繋ぐようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいた支援を行い、変化があった場合には打ち合わせ時やミーティング・ケアカンファレンスを行い即ケアに繋げ入居者が困らないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌および業務日誌等へ記録し、変化時には送り欄を活用し情報の共有を図る、ケア日誌にはプランのチェックランを設け、現状に即したケアを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は単独であるために多機能性は活かしていないが入居者や家族の要望があれば柔軟な支援は行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の協力で、毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしている。またなじみのお店には入居者のみでの買物に協力していただいている。町内会に加入し、回覧板を回し、ゴミ当番、ゴミ拾いに参加している。また地域の行事や小学校や幼稚園の運動会等見学、公民館文化発表会でのふれあいステージに参加した		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を利用されている。家族と情報を共有し、緊急を要する場合は協力病院へ受診同行している。通院が困難になった場合は訪問医を利用されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制はとっていないので看護職員はいないが管理者が利用者の状況により医療との情報提供を行い適切な受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く、また入院計画書を見せていただいている、入院中も様子を見に出掛けている、退院時は退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル加算はとっていないが、家族会において週末ケアの話をさせていただいている。事業所でできることを十分に理解していただき、本人や家族の希望があればできる限り支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・緊急時の対応マニュアルは作成され職員勉強会で確認している、また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した書類を持参し活用している。昨年は救急救命法の研修を実施したが、新人職員へは今年は管理者の指導に留まっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・非難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けに注意し 小声で話したり、それぞれに 伝わりやすいような会話に努 め、個人的な話は自室にて行 うようにしている。自室にト イレ洗面所あるので、プライ バシーが保てる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを 理解している。食べたい物 出掛けたい場所等どうした いか問いかけてから自己決定 している、決定できない方は。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように入居者の あるがままを受け入れること を基本にしているので職員側 の都合で無理強はしない、一 人ひとりの意思や体調を確認 しながら、その方のペースで 生活できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場にあった服装、特に外 出や行事のときは注意して いる、お化粧を促したり、理・美 容は行きつけの所へ行かれて いる、困難な方には美容師の 方へ毎月来て頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを食べることが一番楽しみにされているので、毎日何が食べたいかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。美味しいものを食べると元気であることを実感している。毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう、三食とも入居者と共に調理、盛り付け、片付けを行い、職員も一緒に食べて楽しく会話をしている。誕生日にはその方の好みのものを取入れている。外食時には自分で食べたいものを選んでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの食材を使い、栄養バランスを考えている、水分量や食事は記録をとり、不足している場合には、補食や形態を変えるなど対応しているまた好みのものを用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り、介助を行っている。必要に応じて訪問歯科医からの口腔ケアの指導を受けることもある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見て声掛けを行い、トイレでの排泄に努めている。失敗があったときは、プライバシーに気をつけ、入浴、清拭や洗浄を行うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、多くの野菜が摂れるような食事や乳製品、野菜ジュース等飲み物や日中の活動にも気をつけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を重視している、好みの温度や時間など個々に応じ、ゆっくり楽しんでもらっている。拒否がある場合は無理に進めず、清拭や足浴などで対応する場合もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に休息が必要な方は本人の希望でベッドやソファで休んで頂いている。夜はしっかり眠れるように、身体を動かし、外気に触れ安眠につないでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識については職員全員が十分理解してはいないが、管理者の指示の元、薬の管理、誤薬防止、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作り、郷土料理を教える、生ジュース、コーヒーを入れる、得意な縫い物を行う、掃除を行う、買物に出かける、食器洗い、拭きを行う、散歩に行く等々それぞれの役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ全員が毎日戸外へ出かけることに努力している。買い物、季節ごとの行事を計画し、家族の協力で今年はリフトバスにて東京旅行を満喫した。地域の行事にも参加している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少ないが、外出するときや買い物に出かけたときには自分の財布を持って行かれ支払いをする方もいる、食材の買物時にも支払いをして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書が届いたときや荷物が届いたときは返事を書くように勧めたり、また電話を希望されることもある、家族や知人からの電話の取次ぎもおこなう		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、玄関や、フロアでは季節ごとの飾りで生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽の当たる窓際には畳やソファを置き、日向ぼっこをされている。またテレビの前にもソファをおいて、くつろげる場所を作り、それぞれ好きなところで過ごしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのもを持ってきて頂いている、場合によっては本人と共に求めに行くこともある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ洗面台が付いて、手すり、入り口は引き戸である、今できることが少しでも継続できるように、職員は入居者のできること、わかることを奪わないように支援するよう努めている		



5					
---	--	--	--	--	--

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。